

私は反米だ。しかし、アメリカが嫌いなわけではない。いや、むしろ羨ましくすら思う。国家として堂々と振る舞い、国益や国民保護を最優先にしているからだ。ただ、その結果、日本人が損害を被ることは断固反対する。

2003年のイラク戦争は、大義なき戦争と言われるが、大量破壊兵器の排除という戦争目的？を捏造した近年稀に見る堂々たる侵略戦争だ。

当時、小泉内閣は、英仏ですら二の足を踏む戦争支援を、先陣を切って表明した。当時の福田官房長官（ハト派）も、「とにかく情報がなかった」と内閣の決断を擁護するが、情報が全くないのに、侵略戦争に加担したとは驚きだ。

さらに驚くのは、日本国はこの戦争加担の公式検証を、「大量破壊兵器を確認する情報を得てはいなかった」などと、なんと「A4サイズ4ページ」で他人事のように総括している。英国はというと、7年間という膨大な時間と証拠調べ、日本の1000倍以上のページを割いて検証総括を行い、軍事行動を断罪している。しかし、小泉元首相は今もなお「査察を受けなかったことが戦争の原因だ」と、イラクの主権を堂々と否定し、侵略を肯定している。

わが国は、70数年前の戦争を、国家として検証・総括することを避けてきた。いや、逃げてきた。戦争犯罪を捏造され、戦勝国に一方的に裁かれたわけだが、帝国主義の時世、欧米列強に倣って国際法と協定に従い、国際社会の承認のもと、侵略戦争をし

反米か 反省か

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

ていただけだ。欧米列強の罪は正義であり、日本の罪は謝罪すべき悪徳である、と説くのは、人種差別も甚だしい。

それでも今なお、謝罪と反省を求められ、日本人自身に加害意識が残るのは、戦争に負け、勝った国が作ったルールを信奉せざるを得なかったからだ。

国家として実直に検証すらず、何を反省し、何を謝ると言うのだろうか。ほんの10数年前の、紛れもない侵略戦争を支え、帝国の侵略を肯定した、その罪の方がより甚大である。帝国主義時代の侵略とは次元の違う「平成の悪行」に手を貸した自覚すらないのに、昭和の「70年ごしの反省」には必要以上に執心してしまう。支離滅裂とはこのことだろう。

帝国の大統領は、悪びれもせず核のボタンを広島に持ち込み、その一方で、涙目で核兵器被害者と抱擁をかわす悲劇役者だ。私は、そのことを理解できるほど大人ではない。自覚のない加害を続ける帝国と同じ道を歩む覚悟ならば、反戦平和を気取る資格はない。

帝国の与えた日本国憲法が、帝国のご都合で「解釈と称するウソの上書き」をされ、帝国の戦争に加担する、という滑稽な現実：それでも、平和憲法というトン珍漢な信仰にすぎない日本人：その不思議な「トン珍漢さ」と、善人面をした「自覚のない加害」は、主権国家として致命的だ。



Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集
『雲涯蒼天』
定価700円
Amazonにて販売中